

びわぎんの取り組み

Reduce

エコオフィスづくり運動
当行では平成13年度から「ノーネクタイ運動」に取り組み、省エネに大きな成果を上げています。

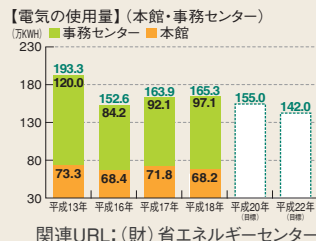


省エネルギー推進

電力使用量の削減に努めています。



(財)省エネルギーセンターより省エネルギー診断を受審し、さらに省エネルギーに努めています。



関連URL: (財)省エネルギーセンター <http://www.eccj.or.jp/>

雨水タンク「たまるくん」の設置後の反響

本店に、雨水を利用するためのリサイクルタンクを設置しました。洗車や花、植木への散水に活用するほか、地震など災害時における非常用水源の役割も果たします。

雨水タンクの見学 (平成18年度 6団体 40名)

Recycle

「段ボール、シュレッターゴミ」のリサイクル
リサイクル処理したトイレットペーパー1万ロールを滋賀県教育委員会を通じて、県立障害児教育諸学校(13校)に毎年寄贈しています。



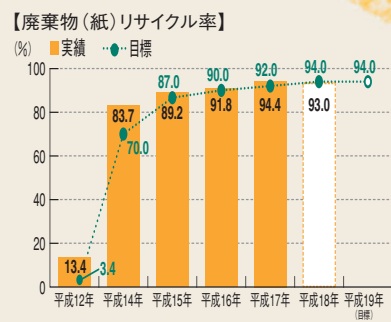
リサイクルペーパーを1万ロール寄贈



リサイクルペーパーを1万ロール寄贈

リサイクル

- 機密関係書類は地元製紙会社に溶解し、ダンボール素材にリサイクル
- シュレッターゴミはトイレットペーパーにリサイクル
- 廃蛍光灯を(年間約1,000本)建設資材等にリサイクル



3R活動+Gとは…?

- Reduce [リデュース] 発生抑制
不要なものを買わない、ものを長く使う。
- Reuse [リユース] 再利用
使い終わったものを繰り返し使用。
- Recycle [リサイクル] 再生利用
再使用できないものも資源としてリサイクル。
- Green [グリーン] グリーン購入
環境負荷ができるだけ小さい製品やサービスを、環境負荷の低減に努めている事業者から優先して購入する。

Reuse

びわぎん事務機器リサイクル工房
「びわぎん事務機器リサイクル工房」では各店から運ばれてくる事務機やイス、ロッカーなどを修理して再生します。



再生した事務機器は再び本支店で利用したり、福祉施設等に寄付するなどしています。

Green

グリーン購入
消費者として環境保全を支持し、事務用品や事務機器から低公害車まで、環境に配慮したグリーン購入を進めています。



バイオディーゼル車を導入

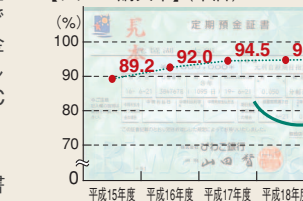
グリーン購入の推進

当行では、「グリーン購入基本方針」を制定し、事務用品から低公害車まで毎年購入物を見直しており、定期預金の証書もグリーン購入により対応しました。電算帳票用紙も、再生紙やFSC認証された紙類を使用しています。

- 主な取り組み項目
事務用品、パンフレット類、銀行書類(伝票、お礼の帯封、証書など)、自動車、コピー機など

関連URL: グリーン購入ネットワーク(GPN) <http://www.gpn.jp/> 滋賀GPN <http://shigagpn.gr.jp/>

【グリーン購入率】(本店)



※当行では定期預金証書も再生紙を利用しています

※グリーン購入とは…
購入の必要性を十分に考慮し、品質や価格だけでなく環境の事を考え、環境負荷ができるだけ小さい製品やサービスを、環境負荷の低減に努める事業者から優先して購入することです。



環境コミュニケーション

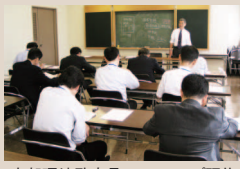
当行では、役職員への啓発はもとより、お取引先や地域に向けた環境関連情報発信により、さまざまな環境コミュニケーションを行っています。

環境教育

「ISO14001」を運用していくためには、役職員一人ひとりの環境に対する意識改革が不可欠です。当行では、啓発活動として環境セミナーを定期的に開催し、地球環境保全の重要性、環境マネジメントシステムの仕組み等について学習しています。また、毎年内部環境監査員を数名養成しています。



地球環境保全セミナー



内部環境監査員レベルアップ研修

ECO検定の推進

主催:東京商工会議所
当行でのECO検定合格者 4名 (平成19年8月現在)

訓練・汚染の予防

当行(本店)では、「重油の油洩れ(給油時・貯蔵時)」、「ハロゲンガスの洩れ」等を緊急事態として特定し、定期的な手順のテストと緊急事態訓練を実施して、必要に応じた見直しを行っています。平成18年度の事故発生件数は0件でした。また、当行における騒音の測定値は基準以下となっています。なお、平成18年度の環境関連クレームはありませんでした。



緊急事態訓練

環境情報の提供

地域のエコリーダーバンクを目指す当行では、お取引先の皆さまに役立つ環境関連情報提供に努めています。

ホームページにも掲載中



「ディスクロージャー誌」「エコさん一家の日曜日」お子さま向け環境学習冊子 vol.8 「びわ湖の水質について」

びわ銀環境セミナーを開催

平成19年3月「今、なぜ琵琶湖の水が大切か」をテーマに、「あなたの知らない琵琶湖の水の現状」、「きれいな琵琶湖を取り戻そう」、「琵琶湖の水〜これだけは知っておきたいこと」について、有益な情報を提供しました。



「なほISO14001」「びわぎん経済情報」

地域貢献活動

長年続く地域清掃ボランティア活動

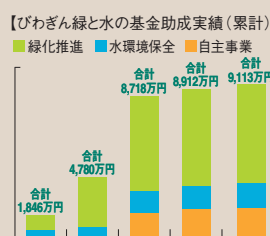
当行では、地域の清掃活動をはじめ、長年にわたり役員によるボランティア活動を地道に続けてきました。「ボランティア活動支援委員会」を設置し、ボランティア休暇制度をはじめとした支援制度を整え積極的に参加することにより、地域社会とのふれあいを大切にしています。



「びわこ水源の森林(もり)づくり」ボランティア活動

びわぎん緑と水の基金による助成

平成4年の設立以来、県内で緑化推進や水環境保全に取り組む自治会やNPOなどによる身近な地域の環境保全活動を見守り続けています。



美しい湖国をつくる会(ゴミ袋の調製を助成)

滋賀県内全店を「子ども110番のおみせ」に

子どもの犯罪被害が増加し、社会問題化するなか、当行の県内各地の店舗網を、緊急避難場所である「子ども110番のおみせ」とすることで、子どもたちが安心して行動できる地域社会づくりに貢献します。



スポーツ貢献

平成5年から始まった「びわ銀エコカップ手島杯争奪学童野球」のほか、平成6年には「びわこ銀行杯少年サッカー選抜大会」、平成7年には「びわこ杯滋賀県中学生卓球大会」をそれぞれ創設し、以来、3つのスポーツ大会に協賛しています。当行は、スポーツ大会への協賛を通じて、湖国スポーツのレベルアップと子どもたちの健全な成長を願っています。

中でも、学童野球大会については、後援先である滋賀県地球温暖化防止活動推進センターの協力を得て、会場内に環境啓発ポスターや器具の展示・実演がされるほか、参加者からもペットボトルキャップや不要となった鉛筆を集めてリユース、リサイクルし、名称も「びわ銀エコカップ手島杯争奪学童野球大会」と改めて開催いたしました。



びわ銀エコカップ手島杯争奪学童野球大会、びわこ銀行杯少年サッカー選抜大会、びわこ杯滋賀県中学生卓球大会

【びわ銀エコカップ学童野球大会の流れ】



地球温暖化防止に向けて

「STOP!地球温暖化」2010プラン

みんなで止めよう温暖化
チーム・マイナス6%

チーム・マイナス6%に参加

当行は政府が推進する「チーム・マイナス6%」に参加し、全店で地球温暖化防止に向けた取り組みを行っています。室温のきめ細かな設定（暖房20℃以下、冷房28℃以上）、空調機の運転時間の限定、アイドリング防止による排気ガス軽減啓発などにより、温室効果ガス削減に努めています。

COOL BIZ EXECUTIVES企画に協力

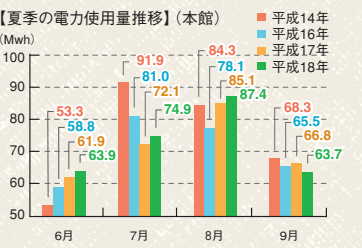
環境省が提唱する「COOL BIZ EXECUTIVES」企画に協力しました。本企画では、「チーム・マイナス6%」の趣旨に賛同し協力する企業・団体のトップクラスが、「クールビズ」スタイルで出演するビジュアルを作成し、交通広告や新聞広告・Webを通して、多くの業界がこれに取り組んでいる姿を発信しており、当行頭取・山田 督も参加しています。



平成13年度から継続「クールビズ」「ノーネクタイ運動」

平成13年夏より夏季の省エネ対策として「びわこエコ・サマーキャンペーン」「ノーネクタイ運動」を全店において実施しています。

ノーネクタイの場合、体感温度は約2℃下がるとされ、夏場の省エネ効果を上げています。なお当行は、政府の軽装推進「クールビズ」にも賛同しています。



事業所対抗「省エネ・レース」に参加

CO₂削減を競う第1回事業所対抗「省エネ・レース」に滋賀県下の本支店64か店が参加しました。

- 省エネ・レースとは：
電気・ガス・水道使用量の前年対比の削減率を競うレースです。削減率1位～3位に当行が入賞しました。



主催：滋賀県地球温暖化防止活動推進センター [(財)淡海環境保全財団]
URL: <http://www.ohmi.or.jp/ondanka/>

温室効果ガス (CO₂) 排出量削減・推進

環境関連融資などを通じたCO₂削減をはじめ、環境マネジメントシステム運用による当行自身の環境負荷軽減と1975年から継続する苗木の寄贈により、2010年には2000年比33.3%のCO₂削減を目標としています。

【びわこ銀行「STOP!地球温暖化」2010プラン】

西暦	元号	温室効果ガス (CO ₂) 排出量 (ト)					1990年比 (平成2年) 削減率 (%)	2000年比 (平成12年) 削減率 (%)	2004年比 (平成16年) 削減率 (%)	CO ₂ を吸収するのに 必要な杉の本数 (千本) (50年生/年)
		電力 (本店)	都市ガス (本店)	重油 (本店)	ガソリン (全店)	合計				
1990年	平成 2年	1,843	13	97	495	2,448	京都議定書基準年			
2000年	平成12年	937	16	82	485	1,520	37.9	ISO14001取組開始	109	
2004年	平成16年	586	17	57	465	1,125	54.0	26.0	京都議定書発効	
2006年	平成18年	592	20	42	515	1,169	52.2	23.1	▲1.4	
2007年	平成19年	591	19	40	449	1,099	55.1	27.8	4.7	
2010年	平成22年	510	18	40	445	1,014	58.6	33.3	12.0	

項目	内訳	施策・目標	2000年⇒ 2006年	2000年⇒ 2010年
◆自らの環境負荷軽減	・電力使用量削減 ・都市ガス使用量削減 ・重油使用量削減 ・ガソリン使用量削減	・省エネ機器の設置、不要電気OFF ・省エネ型の厨房(料理) ・暖房時間厳守、温度管理の徹底 ・アイドリング防止、空ふかし防止キャンペーン	6年前対比 △351ト △23.1%	10年前対比 △506ト △33.3%
◆事業活動を通じた環境負荷軽減	[環境関連事業活動] ・環境サポートローン ・ISOサポートローン ・エコライフプラン等の支援活動によるCO ₂ 削減	・省エネ住宅(住宅性能表示) ・新エネルギーローン(太陽光発電) 目標:20軒以上/年間 (1軒のご家庭の電力使用量が平均3,500kWh(年間)とし、20%の削減効果があったとして試算) ・オートローン(エコライフプラン) 目標:5台以上/年間 (環境対応車と従来車との対比を試算)	△23ト △21ト	△55ト △28ト
◆緑の森林づくり運動	・昭和50年より苗木の寄贈	・継続した植樹活動 ・11万本×14kg=1,540ト/年 (林野庁H・Pより50年生の杉の木が1年間に吸収するCO ₂ を植樹本数に換算した場合)	△1,540ト	△1,540ト
CO ₂ 期間中排出量/年間			1,169ト	1,014ト
(環境関連事業+びわぎん緑と水の基金) = 有益・間接的なCO ₂ 削減			△1,584ト	△1,623ト
[地球上に排出するCO ₂] 差し引き			△415ト	△609ト

※温室効果ガス排出仮数は滋賀県大気環境への負荷の低減に関する条例による

〇 びわぎん環境保全活動のあゆみ

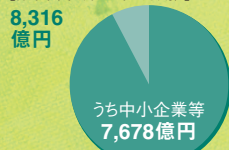
年月	内容	主催等
昭和50年	全国植樹祭開催(現 栗東市)を機に植樹活動を開始	
平成13年	ISO14001認証取得(第二地方銀行で初)	
平成18年6月	受賞 「第4回 日本環境経営大賞(大企業の部 環境経営優秀賞)」受賞	日本環境経営大賞表彰委員会、三重県
	TV出演 びわこ放送 びびっとびわこN 「地元役に役立つ『じぎん』づくり、びわこ銀行の取り組み」	びわこ放送
平成18年7月	講演 「大阪グリーン・ファイナンスセミナー」[環境と金融のいい関係] 「地域に密着した環境銀行の取り組み」	大阪府
	講演 エコビジネスセミナー「第4回 日本環境経営大賞」から見た環境経営	三重県環境経営サロン、三重県
平成18年8月	TV出演 テレビ大阪「環境立国、滋賀県の『もったいないの取り組み』」	テレビ大阪
平成18年11月	パネル参加 ふくい環境シンポジウム「グリーン購入の輪で地球温暖化防止」	福井グリーン購入ネットワーク、福井県
平成18年12月	受賞 「平成18年度 地球温暖化防止活動環境大臣表彰」受賞	環境省
平成19年2月	選定 「平成18年度 NGO/NPO・企業環境政策提言」(優秀提言に選定される)	環境省
平成19年3月	受賞 環境マネジメントシステム大賞「地域貢献環境大賞」受賞	システム規格社(月刊アイソス)
	セミナー開催 「びわ銀環境セミナー」～テーマ「今、なぜ琵琶湖の水が大切なか」	当行
平成19年4月	講演 クールビズ・トップセミナー講演	福井県
平成19年5月	掲載 枝廣淳子(「不都合な真実」翻訳者)の「プロジェクト-e」に「びわこ銀行の環境の取り組み」が掲載	月刊エルネオス(2007.5月号)
平成19年6月	パネル参加 「COOL BIZ EXECUTIVES企画」に頭取が参加	環境省(東京メトロ 新宿、大手町駅 JR大阪駅東口、日本経済新聞社に掲載)
	環境シンポジウム開催 「環境問題をお金の流れ(金融)から考える」 NGO・NPO/企業環境政策提言 優秀提言紹介シンポジウム	環境省、当行
平成19年7月	協賛 チームマイナス6%「1人、1日、1kgのCO ₂ 削減」応援キャンペーン、協賛企業第1号 「CO ₂ ダイエット・チャレンジ定期預金」9月より発売	政府、チームマイナス6%事務局
	参加 平成18年度 事業所対抗「省エネ・レース」優勝、2位、3位に当行が受賞 優勝 びわこ銀行長浜駅前支店 平成19年度も引き続き参加	滋賀県地球温暖化防止活動推進センター (財)淡海環境保全財団
平成19年8月	スポーツイベント開催 第15回 びわ銀エコカップ手島杯争奪学童野球大会開催 (今大会より、エコカップに名称変更ベットのキャップ約7万個を回収)	主催:大津市軟式野球連盟 共催:びわこ銀行

〇 預金・貸金の概要

【預金(平成19年3月期)】



【融資(平成19年3月期)】



編集後記

当行では、「地球温暖化防止活動」を重要課題として、環境経営に取り組んでいます。環境関連商品の開発や環境改善への政策提言など、本年も環境保全・地域貢献報告書(かわら版)2007年度版を発行いたしました。「環境銀行」をはじめとする新しい取り組みを一人でも多くの皆さまに知っていただければ幸いです。ぜひ、ご意見・ご感想などをお寄せください。

(メールでのお問い合わせは、ホームページの「ご意見・ご質問」フォームをご利用ください。)

〇 環境報告書ガイドライン対応表

【2006年環境報告書掲載概要と環境報告書ガイドライン2003年度版(環境省作成)との対比表】

項目	対応	頁	環境報告書への開示内容
環境報告書の全体構成			
(1) 基本的項目			
1. 経営責任者の緒言(総括及び誓約を含む)	○	2	頭取の「ごあいさつ」
2. 報告書に当たっての基本的要件(対象組織・期間・分野)	○	8	当行の概要、報告書の対象範囲
3. 事業の概況	○	8	預金、貸金の推移
(2) 事業活動における環境配慮の方針・目標・実績等の総括			
4. 事業活動における環境配慮の方針	○	4	びわこ銀行環境方針
5. 事業活動への環境配慮の組込に関する目標、計画及び実績等の総括	○	4	目的および目標
6. 事業活動のマテリアルバランス	-	-	該当無し
7. 環境会計情報の総括	△	3	損益計算書を開示
(3) 環境マネジメントに関する状況			
8. 環境マネジメントシステムの状況	○	4~8	具体的な取り組み状況を開示
9. 環境に配慮したサプライチェーンマネジメント等の状況(企業間連携、取引先への要求、依頼)	○	2~3 5~6	CO ₂ 削減目標設定、環境サポーター、エコイノベーション委託業者との連携による環境マネジメント活動の展開
10. 環境に配慮した新技術等の研究開発の状況	-	-	該当無し
11. 環境情報開示、環境コミュニケーションの状況	○	5~6	汚染の予防、環境教育、環境情報提供等
12. 環境に関する規制の遵守の状況	○	5	環境法令違反、苦情件数開示
13. 環境に関する社会貢献活動の状況	○	5~6	苗木寄贈、ボランティア、トイレトイペーパー寄贈
(4) 事業活動に伴う環境負荷及びその低減に向けた取組の状況			
14. 総エネルギー投入量及び低減対策	○	5・8	電気使用量、環境マネジメントシステムのパフォーマンス
15. 総物質投入量及びその低減対策	-	-	該当無し
16. 水資源投入量及びその低減対策	○	8	グラフにて開示
17. 温室効果ガス排出量及びその低減対策	○	8	CO ₂ の排出量
18. 化学物質排出量・移動量及びその低減対策	○	5・6	PCBの保管状況
19. 総製品生産量又は総商品販売量	○	2	環境関連定期預金、環境関連融資残高を開示
20. 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	△	5・8	廃棄物(紙)の排出量/再資源化率を開示
21. 総排出量及びその低減対策	△	未	16. 水資源と同数値、水質検査は未実施
22. 輸送に係る環境負荷の状況及びその低減対策	○	8	ガソリンの使用量開示、低公害車率の推進
23. グリーン購入の状況及びその推進方法	○	6	頒布品、パンフレット+グリーン購入率開示
24. 製品・サービスのライフサイクルでの環境負荷の状況及びその低減対策	○	5・6	3R活動+グリーン購入の推進
(5) 社会的取組の状況			
25. 社会的取組の状況(労働安全衛生、人権、雇用、地域の文化、個人情報保護等)	△	2・5・6	環境関連定期預金による寄付・地域貢献活動など

報告書の対象範囲

報告範囲は基本的に平成18年度(平成18年4月1日~平成19年3月31日)の環境保全活動および環境パフォーマンス等としていますが、一部には複数年度の事象も含めています。ISO環境マネジメントシステムの認証範囲は本店ですが、報告書に記載している環境保全活動の数値には銀行全体の活動内容も一部含まれています。

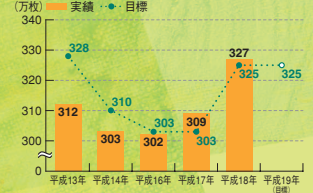
当行の概要

本店所在地	滋賀県大津市中央四丁目5番12号
設立	昭和17年10月2日
総資産	1兆830億円
預金	1兆16億円
貸出金	8,316億円
資本金	280億円
店舗数	70か店
従業員数	811名

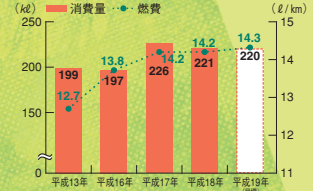
(平成19年3月31日現在)

環境マネジメントのパフォーマンス

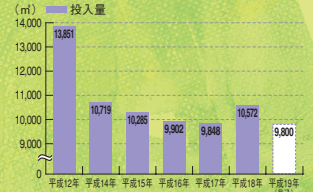
【紙(コピー用紙)の使用量】



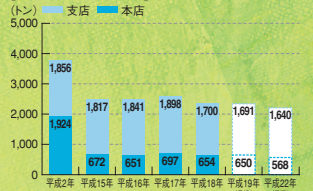
【ガソリン消費量・燃費の推移】



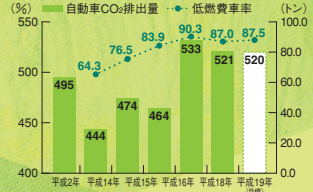
【水資源投入量】(本店)



【温室効果ガス(CO₂)】(全店)



【自動車使用によるCO₂排出量/低燃費率】(全店)



【廃棄物(再資源化率)】(本店)

